

【目的】

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた取組

目標に準拠した観点別学習状況評価の取組、ICT環境を生かした指導の工夫

【領域】

球技：ネット型（卓球）

1 実施の概要

- （１）実施環境：武道場（Wi Fi 環境有り）
- （２）使用機器：タブレット（１人１台）
- （３）活用ソフト：カメラアプリ
- （４）対象：その次の年次 男 16 名 女 26 名 選択制授業

2 活用の実際（ICT環境を生かした指導の工夫）

（１）「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた取組

【学習の流れ】

【導入】

体操・補強
フォアハンドラリー

【展開】

多球練習
フォアハンドの分析
グループで意見交換
チャンピオンゲーム

【まとめ】

本時の振り返り
次時の確認
Formsで振り返り

【活用場面】 場面：展開

多球練習においてフォアハンドの動作を撮影し、フォアハンドの目標とするフォーム(ボールをとらえる位置、ラケット角度、スイング、フォーム)を確認させるとともに、練習中・練習後にフォームの良かった点や改善点等について話し合いを行った。

【活用場面写真等】



（２）目標に準拠した観点別学習評価の取組

【観点別学習状況評価】

思考・判断・表現

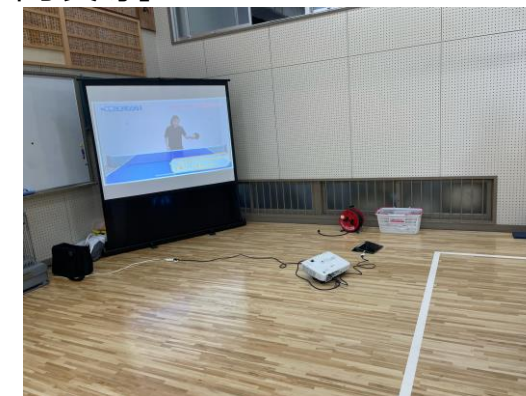
【評価規準】

選択した運動について、合理的な動きと自己や仲間の動きを比較して、成果や改善すべきポイントとその理由を仲間に伝えている。

【活用方法】

- ①見本の映像を参考にしながらグループミーティングにおいて、多球練習を撮影した映像を活用し、お互いの動作の良かった点、課題点について話し合いを行った。
- ②Microsoft formsにおいて個人の反省点を記入させ、次回の授業時に目標とするポイントを考えさせた。

【活用場面写真等】



3 参加した生徒の感想等

- ・自分のフォームを初めて見て、見本動画との違いを比べながら分析することで改善点が発見できて良かったです。
- ・映像で自分が動いているところを見たことがなかったので面白かった。ラケットの角度など、意識すべきところを客観視しながら自分はどうか確認できたし、上手な人と比較することもできて良かった。
- ・自分のフォームを見たことで今までの自分の打ち方がお手本の動画と比べて手の振り方や体の位置が違うことに気づけた。これからの練習でお手本の動画のように打るように声掛けや確認することを大切にして改善できるようにしたい。
- ・動画で撮って確認することで自分がどこが出来ていないのかが分かりやすかった。スクリーンでお手本を見れたこともよかった。

4 成果と課題

（１）「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた取組

【成果】

多球練習の映像を活用して、見本となる動作にどのように近づけたら良いかをグループで話し合い、自身や仲間の課題を解決するための主体的・対話的で深い学びにつながった。その結果、その後のゲーム練習において動作のポイントを確認する姿や、仲間同士で具体的なポイントを例示しながらの会話する姿が見られた。ゲーム中においてもフォアハンドでの返球の精度が向上した。

【課題】

見本に近づけようとする姿は見られたが、個人において意識するポイントが違うこともあり、より個人に応じたポイントを例示する必要があると感じた。また、タブレットで撮影することで動作の細分化はできたが、運動量の観点からすると若干運動量が落ちてしまった。

（２）目標に準拠した観点別学習評価の取組

【成果】

タブレットで撮影した多球練習の映像を活用することにより、フォアハンドのラリーにおいて自身の課題を確認することができた。その結果、自身や仲間の課題を発見することができた。また、その後のゲーム練習でも個人でフォームの確認をする姿やより技能の高い仲間の動きを取り入れようとする話し合いが行われた。

【課題】

目標となる動作のポイントについて提示できなかった。自身のプレーを振り返る材料としてより複数の観点を提示することによって、生徒間の話し合いも具体的かつ個人にあったミーティングになり、思考力、判断力、表現力等を習得できると考える。